

マレーシアに行ってきました

平成27年10月20日

☆ 社員旅行による休業のお知らせ

来月の11月2日(月)と11月4日(水)は社員旅行のため、臨時休業させていただきます。ご迷惑をおかけしますが、何とぞご了承下さい。なお、緊急の連絡は久納の携帯電話090-2189-3337 までご連絡下さい。

9月にマレーシアに行ってきました。例年9月に東南アジアのどこかの国を訪問していますが、今年はマレーシアとなりました。

マレーシアは東南アジアの中では、発展している方の国に属します。一人当たりのGDPはすでに1万ドルを超えて、アジアでは台湾に次いで7位(日本は4位)です。台湾とは差が開いていますが、中国(9位)よりも上位となっています。

一人当たりのGDPが高いのは、電子部品の製造に競争力を持っていることに加え、石油・天然ガスの天然資源、パーム油といった農作物もあることが寄与しています。

労働者の最低賃金は月900リンギ(約3万円)ですが、大卒者の初任給は3,300リンギ(10万円)から4,000リンギ(12万円)で、安い労働力によって、安く製品を作るようなビジネスモデルは成り立たなくなっています。それに加え、最近は労働力不足となっており、訪問した日系企業も苦勞されていました。

人口など

マレーシアの人口は約3千万人でアジアの中では人口が多い方ではありません。首都はクアラルンプールで、人口は2百万人。名古屋市とほぼ一緒ですが、はるかに大都会でした。人口が一緒なのになぜこんなに違うのかと考えてしまうほど違います。現在も続々と

マンションの建築が続いています。

通貨はリンギ。日本ではリングットと呼んでいますが、現地では最後の「ト」は発音しないので、「リングッ」というのが近い読み方になります。1リンギ30円くらいです。

物価水準は日本の半分より少し下程度ではないかと思えます。ただ、アルコール類は大変高いです。ビールをコンビニで買いましたが、350cc 缶が300円くらいと、日本より高くなっていました。これはイスラム教ではアルコール禁止のため、お酒の値段が高くともイスラム教徒であるマレー人には影響がないためだと推測されます。

親日国

マレーシアは親日国です。しかし、最初から親日だったわけではないそうです。これは、マハティール首相(1981-2003)が「ルックイースト」政策を行い、日本に対する意識を変えたことに大きく依存しているそうです。

これだけの親日国が、もともとは親日ではなかったことに驚きました。親日・反日は戦後の教育や環境が大きく作用するという実例といえます。逆に言えば、今も反日のテレビドラマを流し続けている中国などでは、反日意識が当面抜けることはないのは残念ながら確実といえます。

日系企業は人気がない？

ジェトロ(日本貿易振興機構)でマレーシアの概況説明を受けた中に、「日系企業は就職先としての人気がない」という話があり、少なからずショックでした。親日国だから、当然日系企業は人気があると思いましたが、他国の企業の方が人気が高いということでした。

理由の一つは給与面で、他国企業の方が高

い給与水準を提示しているためです。もう一つは日系企業では日本人がトップにいるのに対し、他国企業では経営トップの現地人化が進んでおり、昇進のチャンスが大きいということでした。

宗教的な争いはない

マレーシアは多民族国家です。約6割がマレー人、2割が中華系、6%がインド系です。宗教もマレー系はイスラム教、中華系はキリスト教と道教、インド系はヒンズー教が多いようです。

言葉もマレー人同士はマレー語で話し、中華系同士は中国語で話します。相手によって、マレー語、中国語、英語を使い分けていて、普通に3カ国語くらいは話せます。中国語といっても、北京語、広東語、福建語とあり、それぞれ一つの言語とカウントするとともに話せる言語数は増えるということです。

このように多民族の国ですが、宗教による対立、争いはありません。テロもありません。これは、お互いの宗教を尊重しているからです。宗教毎に休息日が違ったり、イスラム教のように就業時間中にお祈りの時間が必要だったりしても、それをとやかく言わない、それぞれの宗教に合わせるという姿勢があるからです。数ある多民族国家の中でも、宗教の融和がうまくいっている国といえます。

ただ最近、民族間の対立も起きてきており、難しい政治運営が必要になっています。

日本人のロングステイ先人気 NO. 1

マレーシアは日本人のロングステイ先としては人気ナンバーワンです。今回の旅行でも、実際にロングステイされている方のお話を聞きましたが、快適のようです。もしも、今後マレーシアに住むことを考えているなら、早めにその資格を取っておいた方がよいというのがアドバイスでした。

理由は、いったん資格を取ってもすぐに住まなくてもいいということ。資格を取るためには月1万リング(約30万円)以上の継続的な

収入があることを証明する必要がありますが、定年退職後ではそれが難しい場合があるからです。

マレーシアはイギリスの植民地だったため、車の通行も左側通行で日本と一緒です。また、物価水準も日本の半分以下、中華系の人たちが経営する中華料理店も多いなど、日本人にとっても住みやすいところとなっています。現在では、日本のテレビがリアルタイムで見られるそうですから、以前に比べても住みやすくなっていると思います。

ハラール認証

マレーシアで最近注目を集めていることに「ハラール認証」があります。みなさんも最近「ハラール」という言葉を聞いたことがあるのではないのでしょうか。ハラール認証はイスラム教の教えに適合していることを証明するもので、最近日本でもハラール認証を取得する会社が多くなっています。ただ、認証機関が乱立しており、その基準も統一されていません。しかし、マレーシアではこの基準を国が決められているので、認証のスタンダードとして注目されているのです。

イスラム教徒は世界で20億人といわれており、こうした人々を顧客にしていくためにはハラール認証が必要となってくるわけです。

細かい取り決めがたくさんあるようですが、一番有名な話としては、イスラム教の人たちは豚を食べません。それだけでなく、豚を切った包丁を使うことも認められません。そのほかにも鳥や牛でも、徹底的に血を抜かないと認められないという決まりもあるようです。こうした決まりを守って作られた食品には「ハラール認証」のマークが付いています。驚いたことに、マレーシアでは飲料水にもハラールマークが付いていました。それくらいあらゆる食品が対象となっているということです。

ちなみに、イスラム教の人が名古屋に来ると食事の場所に困るそうなので、ハラール認証を取ったレストランを作ることも一つのビジネスチャンスかもしれません。以上